

# 砂川市立病院医学雑誌

第32巻第1号 2019年1月

## 目次

### 巻頭言

田口 宏一

### 特別寄稿

砂川市立病院22年の軌跡

小熊 豊 ..... 1

### 投稿論文

当院におけるハイパーサーミアの実情

足達 勇 佐々木勇人 中鉢 純 三浦 良一 田口 宏一 ..... 12

食道裂孔ヘルニアにより汎発性腹膜炎をのがれ救命できた横行結腸穿孔の一例

原田 二郎 本間 友樹 横田 良一 細田 充主 千田 圭悟  
田口 宏一 菊池 謙成 ..... 15

MPO-ANCA陽性頸椎肥厚性硬膜炎に免疫治療が有効であった一例

岡田 健太 松浦 洋介 池田 和奈 山内 理香 藤田 安嗣  
家里 典幸 寺島 嘉紀 菅原 太郎 藤田 裕美 ..... 18

膀胱癌多発転移で死亡した64歳男性

岡田 健太 村中 貴之 菊池 謙成 ..... 21

入院患者における健康食品の利用状況

今泉 慶介 新崎 祐馬 竹内 里哉 小嶋 希望 高橋 一彦 西崎 颯斗  
山下 彰太 渡邊 康太 平井彩也香 松本 友里 上野 英文 ..... 23

当院で経験した日本型有毛細胞白血病の一例

高木 公基 長澤 雄太 椎名 真一 新崎 人士 ..... 25

T2FFEによる頭蓋外舌下神経描出の至適撮像条件の検討

岡 雅大 ..... 28

高齢者でのGoodpasture症候群の治療経験の一例

小西真規也 三浦 良一 柳瀬 雅裕 ..... 31

当院の緩和食の取り組み

越智みずき 野田 順 佐々木千春 中村 那津 下坂 香 ..... 35

救命救急センターに入院する患者の栄養評価 ～入院時の身体的・社会的情報の分析から見たもの～

阿部 貴臣 ..... 37

病棟のチームワークに関わる看護師長の行動

高野美奈子 ..... 41

新人看護師の心理的状況の把握と部署へのフィードバック効果

細海加代子 ..... 44

PDCAサイクルを基軸とした教育担当主任学習会の評価

細海加代子 ..... 47

A救命救急センター受診後に帰宅となった高齢患者の現状

山口 理恵 山口 舞 伊波久美子 ..... 50

「報告しやすい組織文化」醸成への取り組み ～グッドジョブ報告の導入～

山崎 君江 ..... 52

手術室における火災避難訓練の実践・評価と今後の課題 ～フローシートとアクションカードを併用して～	石井 美帆 横山 直樹 福塚 智美 佐藤 美咲	54
ドクターカーに同乗する看護師の教育内容について	中西 郁恵 清水 郁子 伊波久美子	59
病棟間応援体制における看護職員の思いと看護管理者の実践（第1報）	中村 香織 伊波久美子	62
病棟間応援体制における看護職員の思いと看護管理者の実践（第2報）	伊波久美子 中村 香織	67
救命救急センター受診後に帰宅となった高齢患者の日常生活の現状—看護師の気付きと患者の不安の分析から—	田村 慎弥 山口 舞 山口 理恵 伊波久美子	70
<b>CPC レポート</b>		
岡田 健太 村中 貴之 菊池 謙成		76
高橋 直規 工藤 真未 日下 大隆 菊池 謙成		80
小田 亮介 内海久美子 岩木 宏之		83
中山 龍一 数井 翔 千田 圭悟 菊池 謙成		88
中野 陽介 渡部直己 菊池 謙成		92
藤本 純 武田 賢大 岩木 宏之 菊池 謙成		97

## 院内統計

平成29年度 疾患統計	松嶋ゆかり 広庭 歩佳 箭原明日菜 熊谷三四郎	100
中央手術室の年間集計報告（平成29年）	川村 昌経	105
平成29年当院における時間外受診者状況及び救急車等搬入状況	明円 彬 平賀 祐介 上川 光 長谷部莉子 中村 優 川端 祥子 市川 史誠 倉島 久徳 山田 基	113
過去5年間の砂川市立病院事業収支状況	堀下 直樹 明山 優夏	119
2017年度 学術・学会活動記録	学会・研究会発表	124

# Journal of Sunagawa City Medical Center Vol.32 No.1

## Contents

The trajectory of 22 years at Sunagawa City Medical Center <i>Y.Oguma</i> .....	1
Hyperthermia treatment using the Thermotron RF-8 <i>I.Adachi, H.Sasaki, J.Chuubachi, R.Miura, K.Taguchi</i> .....	12
A Case Report of a successful management of a patient with colorectal perforation due to hiatal hernia <i>J.Harada, T.Honma, R.Yokota, M.Hosodai, K.Taguchi, K.Kikuchi</i> .....	15
A case in which immunotherapy was effective for MPO-ANCA positive cervical spine hypertrophic pachymeningitis <i>K.Okada, Y.Matsuura, K.Ikeda, R.Yamauchi, Y.Fujita, N.Iesato, Y.Terashima, T.Sugawara, H.Fujita</i> .....	18
A 64-year old man who died of bladder cancer multiple metastasis <i>K.Okada, T.Muranaka, K.Kikuchi</i> .....	21
Consumption of the health food in the inpatient. <i>K.Imaizumi, Y.Shinzaki, S.Takeuchi, N.Kojima, K.Takahashi, H.Nishizaki, S.Yamashita, K.Watanabe, S.Hirai, Y.Matsumoto, H.Ueno</i> .....	23
A case report of hairy cell leukemia japanese variant <i>K.Takagi, Y.Nagasawa, S.Shiina, H.Sinzaki</i> .....	25
Visualization of The Extracranial Hypoglossal Nerve With Optimized T2FFE Sequence. <i>M.Oka</i> .....	28
A case of treatment experience of Goodpasture's syndrome in the elderly <i>M.Konishi, R.Miura, M.Yanase</i> .....	31
Diet in Palliative Care at Our Hospital <i>M.Ochi, J.Noda, C.Sasaki, N.Nakamura, K.Shimosaka</i> .....	35
Behavior of a nurse chief of the teamwork of the ward <i>T.Abe</i> .....	37
Nutritional assessment of patients admitted to the emergency medical center ~What was seen from the analysis of physical and social information at the time of hospitalization~ <i>M.Takano</i> .....	41
Grasp psychological situation of fresh nurse and feedback effect to department <i>K.Hosoka</i> .....	44
Evaluation of education chief study meeting based on PDCA cycle <i>K.Hosokai</i> .....	47
The current state of the old patient who became going home after A medical emergency center check-up <i>R.Yamaguchi, M.Yamaguchi, K.Inami</i> .....	50
Approach to fostering [Easy reporting organization culture] ~Introduction of good job report~ <i>K.Yamazaki</i> .....	52
Practice and evaluation of five evacuation drills in the operating room and future tasks ~Using flow sheet and action card together~ <i>M.Ishi, N.Yokoyama, T.Fukutsuka, M.Satou</i> .....	54

About education contents of the nurse who rides together in a doctor car. <i>N.Nakanishi, I.Shimizu, K.Inami</i> .....	59
Nursing staff's thought and nursing manager's practice in inter-ward support system (1st report) <i>K.Nakamura, K.Inami</i> .....	62
Practice of thought and the nursing manager of the nursing staff in the support system between the ward (The second report) <i>K.Inami, K.Nakamura</i> .....	67
Current situation of daily life of elderly patients who came home after the emergency medical center visit - Analysis of nurse's concern and patient's anxiety - <i>S.Tamura, M.Yamaguchi, R.Yamaguchi, K.Inami</i> .....	70
CPC REPORT	
<i>K.Okada, T.Muranaka, K.Kikuchi</i> .....	76
<i>N.Takahashi, M.Kudou, T.Kusaka, K.Kikuchi</i> .....	80
<i>R.Oda, K.Utsumi, H.Iwaki</i> .....	83
<i>R.Nakayama, S.Sakurai, K.Senda, K.Kikuchi</i> .....	88
<i>Y.Nakano, N.Watanabe, K.Kikuchi</i> .....	92
<i>J.Fujimoto, K.Takeda, H.Iwaki, K.Kikuchi</i> .....	97
Disease Statistics <i>Y.Matsushima, A.Hironiwa, S.Kimagaya</i> .....	100
Annual report of statistics of surgical operation <i>M.Kawamura</i> .....	105
Statistics of outpatients in the emergency room of Sunagawa city medical center <i>A.Myouen, Y.Hiraga, H.Uemura, R.Hasebe, Y.Nakamura, S.Kawabata, F.Ichikawa, H.Kurashima, M.Yamada</i> .....	113
Report of economic status in the Sunagawa City Medical Center for last 5 years <i>N.Horishita, Y.Akeyama</i> .....	119
Academic publication 2017 .....	124

# 巻 頭 言



砂川市立病院  
院長 田 口 宏 一

## 院長就任にあたって

### ーがん治療のパラダイムシフトー

砂川市立病院医学雑誌第32巻を発刊するにあたり、ご挨拶申し上げます。

平成30年4月より砂川市立病院の院長に就任いたしました。当院は中空知のセンター病院として地域救命救急センター、周産期母子医療センター、認知症医療センター、そして地域がん診療連携拠点病院としての機能を有しており、この地域で完結できる医療、ケアを目指しております。私は消化器外科、緩和ケア外科を担当しており、多くのがんの患者さんの診療を行ってきました。

今年のノーベル医学生理学賞は免疫チェックポイント分子PD1を発見した本所 佑先生が受賞されました。今までがん治療として手術、化学療法、放射線療法、そして第4の治療法として免疫療法が挙げられておりましたが、その成績は芳しくなく、期待できる治療法とは言えませんでした。これは免疫療法が免疫を賦活することを目標にしていましたが、チェックポイント阻害剤はがんによる免疫抑制を解除することで、免疫の力でがん細胞を死滅させることができることを示しています。

固形がんの治療としては、手術で切除することで根治を目指せることが多いですが、再発がんやstageIVの場合には、手術で切除できることが少ないので、化学療法や放射線療法を行うことが標準治療となっております。この場合には治療の目的は根治ではなく、生存期間の延長かQOLの改善になります。免疫療法も残念ながら根治を目指す治療ではありませんが、がん治療においてパラダイムシフトが起きていると考えます。

手術では低侵襲の腹腔鏡下手術が主流になってきており、一部ではロボット手術も施行されております。化学療法では、遺伝子変異を調べることで、抗がん剤ではなく分子標的薬を最初から使用することが肺がんなどでは行われています。抗がん剤や分子標的薬の抗腫瘍効果は直接的な作用はもちろんですが、免疫による効果も報告されております。

がん細胞を異物として認識できれば、NK細胞などの自然免疫系の細胞や細胞障害性T細胞などの獲得免疫系の細胞が、がん細胞を死滅できます。この免疫機能が強力なため、制御性T細胞が活性化したり、がんが活性化したT細胞にPD1やCTLA-4などの免疫チェックポイント分子を発現させて、免疫抑制状態にさせてしまうわけです。免疫チェックポイント阻害剤を投与することで、免疫抑制が解除され活性化したT細胞ががん細胞を攻撃することで、一部の患者には生存期間の延長がみられるようになりました。反面、過剰なT細胞の攻撃で自己免疫疾患が発症することもあり注意が必要です。

当院では温熱療法（ハイパーサーミア）を各種固形癌の患者さんに行っておりますが、これは加温によるがん細胞の死滅や腫瘍血管の破綻などの直接効果の他に、低用量の化学療法との併用で免疫抑制効果の強いMDSC（骨髄由来の免疫抑制細胞）の働きを抑えて、T細胞を活性化して免疫能を増強することで、抗腫瘍効果が認められています。実際にstageIVの大腸がんの患者で5年以上の生存が得られている患者もおります。

更に近赤外線を用いたがん光免疫療法の治験が国立がんセンターで始められました。これは近赤外線の光子を吸収できる分子と分子標的薬の結合体を注射して、近赤外線をあてることで、異常な分子を持っているがん細胞のみを特異的に死滅させる治療です。

またプラズマを利用したがん医療が名古屋大学を中心に開発されており、プラズマの生体への照射だけでなく、プラズマを照射したリンゲル液を注射することで抗腫瘍効果が示されています。近いうちに臨床応用されていくと考えます。

以上のようにがん医療はパラダイムシフトを起こしてはおりますが、手術以外でがんを完全に根治させるのは、まだ困難な状況です。わたしたち医療者はがんを治すのではなく、がんを患っている人を治療するまたはケアするということを肝に銘じておくべきです。どういう医療・ケアをすべきかは、患者それぞれの価値観、人生観などで異なります。

そのため患者、家族、医療者が話し合い、患者にとっての最善の医療・ケアを考えていくこと、これがアドバンス・ケア・プランニング（ACP）になります。

わたしたちは医療の進歩やエビデンスにのみ捕られるのではなく、患者の意向を尊重した医療・ケアの提供を目指したいと考えます。